

第1回検討会の意見を踏まえ、地方公共団体職員向けに、男女共同参画の視点からの「防災研修プログラム」の教材（素案）を作成した。

今後の予定として、本日の検討会の検討に基づき素案を修正し、2月末（または3月上旬）に実施予定の試行結果を踏まえてさらに改善する。第3回検討会（3月16日）で改善の方向性を確認後、研修プログラムを完成させる。

【論点】

- 「目的・目標を達成できるか」「学びやすいか」「分かりやすいか」等の観点から、どこを・どう改善するとよいか

＜主な論点＞

- 教材全体： セッション1～3の目標・構成、内容、手法、所要時間
- セッション1： スライドの流れ、スライドの内容、見せ方
- セッション2： スライドの流れ、取り扱う事例、スライドの内容、見せ方
- セッション3： ワークの流れ、ガイドラインの使い方、取り組みやすさ

1. 改定方針

- インターネットを活用した研修を基本とする。
- 座学は、動画教材（内閣府ホームページから視聴、もしくは動画・教材をダウンロード）
 - ✓ MP4形式で動画教材を作成(スライド+解説)
 - ✓ eラーニングなど、組織研修で利用できる
- ワークショップは、オンライン研修を想定し、スライドを作成（Web会議システムを通じた研修）
 - ✓ ただし、集合研修でも実施できるよう2種類作成
 - ✓ ノート部に講師のセリフを掲載

2. 目的

- 「地域の災害リスクを軽減するためには、男女共同参画の推進が必要不可欠であることを理解するとともに、防災における男女共同参画を推進する上で行政が果たすべき役割を考え、関係部局と連携・協働して施策を実践し、防災の現場に女性の参画を推進できる行政職員の育成を目的とする。
- 研修の実施により、防災施策に男女共同参画の視点が導入され、様々な状況にある多様な住民のニーズに対応した、より質の高い防災施策の企画立案、実施が可能となる。

3. 目標

- 過去の災害や復旧・復興において発生している男女共同参画の課題(困難)を知り、その原因を理解できる。
- 災害時の困難を最小限にするために必要な女性の視点や、災害発生時や復旧・復興時に行政として取るべき行動や対応上のポイントを理解し、活用できるようになる。
- 平常時において、防災・危機管理担当部局と男女共同参画部局が連携・協働し、男女共同参画の視点を入れた効果的な施策を企画・実施するための知識やノウハウを身につけ、自らの業務に適用するなど、防災の現場に女性参画を推進できるようになる。

4. 対象者

- 現行の防災研修プログラムと同じく、災害対応に従事する行政職員を対象とする。
 - ・ 地方公共団体で防災及び男女共同参画に専従している者
 - 防災・危機管理担当部局と男女共同参画部局(男女共同参画センターを含む。)
 - ・ 地方公共団体で災害発生時に対応する者
 - 医療・福祉担当部局、市民共同担当部局、教育委員会等の職員
- なお、職位により学ぶべき事項に違いがあることを踏まえる。

5. 教材等の構成

- ① 手引き: 現行のものを改定
- ② 基本教材(セッション1～3で構成): 原稿の教材を参考に、新たに作成
- ③ 個別教材: 取組事例集を作成(ヒアリング調査の結果を基に、好事例を紹介する資料として作成)

6. 基本教材の作成の考え方（セッション1～3）

- セッションごとの対象者・ねらいを以下のとおり設定した。
- すべてのセッションを1度の研修で実施しても、3時間程度(半日)で収まるようにした。

| 構成 | 対象者(誰を) | ねらい(どんな状態にするか) | 時間 |
|---|--|--|-------------------|
| セッション1 <Why> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地方防災会議の委員 ・ 災害対策本部会議の構成員となる部局長 ・ 課長相当職以下、災害対応に従事する行政職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 男女共同参画の必要性を理解・納得し、他の職員も理解してほしいという気持ちにさせる ・ アクションを起こしてみようという意識が芽生えさせる | 20分程度 ※動画教材 |
| セッション2 <What> <How to> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課長相当職以下、災害対応に従事する行政職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害過程の各段階(※1)の主要な活動について、女性の視点を入れた具体的な知識や活動のポイントを理解してもらう ・ ガイドラインの存在を知り、平常時・災害時に使えそう、使いたいと思わせる ※1: 平常時の備え/初動段階/避難生活/復旧・復興 | 60分程度 ※動画教材 |
| セッション3 <What> <How to> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 課長相当職以下、災害対応に従事する行政職員 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の組織における具体的な取組を見つけ出せる ・ ガイドラインを活用して取組を検討できるようにする | 90分程度 ※オンライン研修 |

5. 教材（素案）の概要

（1）セッション1

- セッション1の教材(素案)を以下のとおり作成した。

別添1

| 項目 | 内容 |
|------|--|
| タイトル | 防災になぜ男女共同参画の視点が必要か |
| 時間 | 20分程度 |
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none">・ 防災になぜ男女共同参画の視点が必要なのかを正しく理解する・ 行動することの大切さに気付く |
| 構成 | <ul style="list-style-type: none">・ 災害とは・ 人と人の助け合いのあり方とは・ 災害で繰り返される問題をどうすれば防ぐことができるか・ 防災力を高めるための、人と人の助け合いのあり方とは・ 繰り返される問題を防ぐために女性の視点を入れるとは・ 女性の視点から「災害対応のあり方を変える」取組の進め方 |
| 工夫 | <ul style="list-style-type: none">・ 防災の観点から、「男女共同参画」の必要性を説明・ あらゆる部局で防災に「男女共同参画」を進めること、行動に移すことが大事であることを伝える |

(2) セッション2

- セッション2の教材(素案)を以下のとおり作成した。

別添2

| 項目 | 内容 |
|------|---|
| タイトル | 災害対応力を強化する女性の視点 |
| 時間 | 60分程度 |
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害過程の各段階の主要な活動について、女性の視点を入れた活動ポイントを理解する ・ ガイドラインを、平常時・災害時にうまく活用できるようになる |
| 構成 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 導入(目標・学習内容／学習の進め方／セッション1ふりかえり) 1. <初動段階> 災害対策本部における体制確保 2. <避難生活段階> 避難所の運営、要配慮者への支援 3. <復旧・復興段階> 住まいづくり、保健・健康増進、生活再建のための生業や就労回復 4. <平常時段階> まず、ここから始める平常時の備え |
| 工夫 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドラインの第2部の内容について学ぶ ・ 災害過程の4つの段階ごとに学ぶ(平常時の備え／初動段階／避難生活／復旧・復興) ・ 「災害時の取組」⇒「平常時の備え」の順番で学ぶ。 ※災害時に発生している問題や対応(好事例)を段階に沿って学び、うまく対応するためには事前の取組が不可欠であることを伝え、平常時の取組について学んでもらう。 ・ 我がこと意識をもって学習に取り組んでいただけるよう、各段階の自分の立場と状況を伝えたくうえで、「あなたはどうか対応しますか？」と問いかけたうえで、考えながら学んでもらう。 ・ 「災害時の取組(上記「構成」の1～3)」で取り上げる活動項目は、幅広い課題を扱うようにする。 ・ 「平常時の備え(上記「構成」の4)」は、取り組みやすさの観点から学ぶ項目を選定する。 ・ 平常時の備えをチェックできる「平常時の備え チェックリスト」(8項目)を作成。(P.53) ・ 関連するガイドラインのページをアイコンで示す。 |

(2) セッション3

- セッション3の教材(素案)を以下のとおり作成した。

別添3

| 項目 | 内容 |
|------|---|
| タイトル | 女性の視点から防災の取組を実践する |
| 時間 | 90分程度 |
| 学習目標 | <ul style="list-style-type: none">● 自身の組織における具体的な取組を見つけ出す● ガイドラインを活用して取組を検討する |
| 構成 | <ul style="list-style-type: none">● 導入(目標・学習内容／セッション2のふりかえり)1. ワーク1 災害発生時の自組織の業務を整理する2. ワーク2 男女共同参画の視点から取組を検討したい業務を選ぶ3. ワーク3 災害時に具体的に取り組むことを検討する4. ワーク4 平常時にしておくことを検討する5. 共有 全体でワークの結果を共有する |
| 工夫 | <ul style="list-style-type: none">● Web会議システムを利用したオンライン研修(演習)のため、ワークショップは「<u>個人ワーク</u>」とし、検討結果を書き込む「<u>ワークシート</u>」を用意する。● <u>集合研修用の教材は「グループワーク</u>」とし、模造紙や付せん紙を使って意見交換しながら検討が進められるようにする。(今後作成)● ガイドラインを参照しながら検討することで、<u>ガイドラインを使う機会</u>を設ける。● 検討の際、セッション2で扱った「<u>平常時の備え チェックリスト</u>」(8項目)を参照させる。(P.16)● ワークごとに<u>記載事例</u>を掲載する。 |